西神楽所有者不明土地対策プロジェクト（北海道旭川市　グラウンドワーク西神楽）

国土交通省

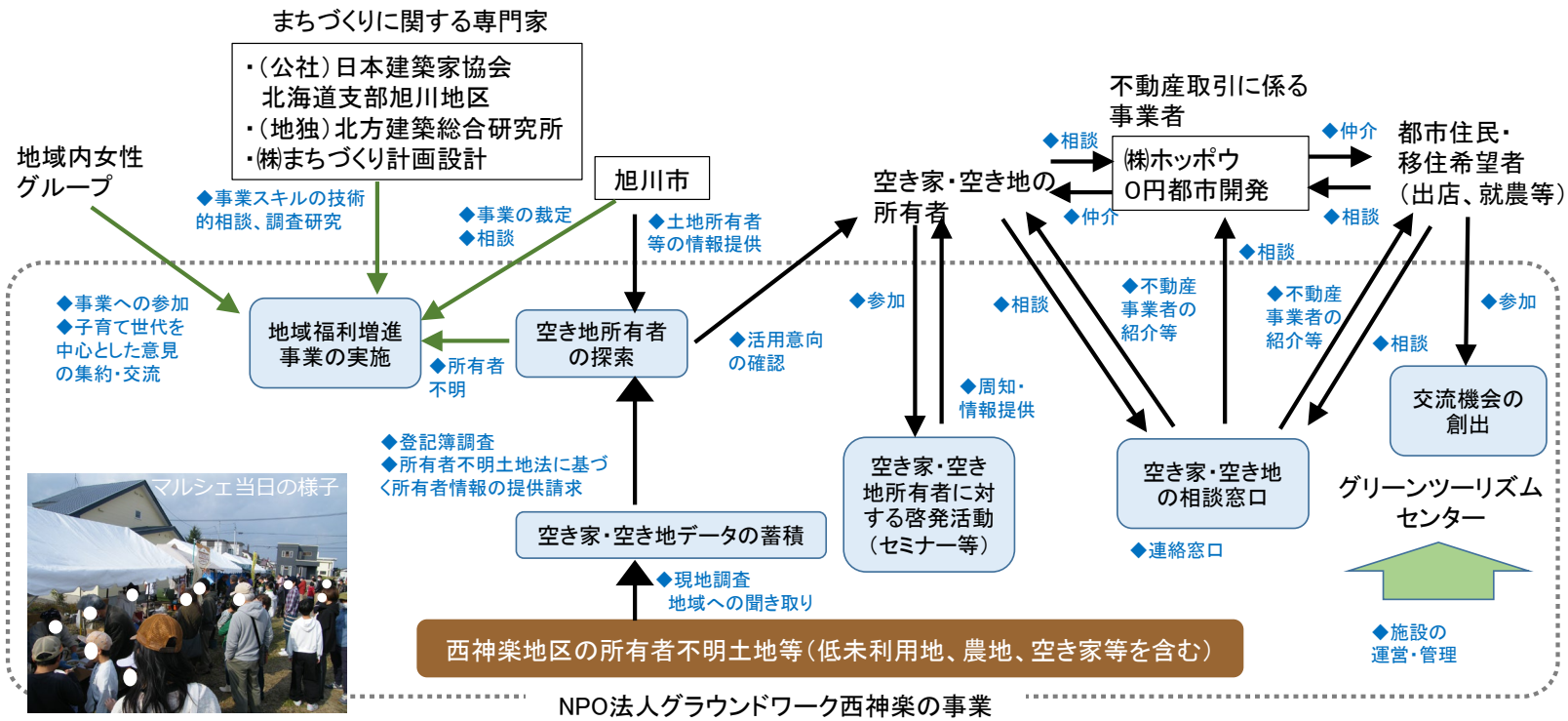
対象地域	対象地域の特性	地域が抱えている課題	主な取組内容
北海道 旭川市 西神楽地区 全域	市の中心部から離れた農村地域にある住宅地だが、空港に近い等の交通利便性もある。 都市住民の二拠点目の居住地としてのニーズも見られる。	独居高齢者・高齢化率が上昇しており、空き家・空き地が増加している一方で、子育て世帯の移住や出店希望者等は増加しており、対応が求められている。	●社会実験として、直近３年以内に若い世代によって新規出店した飲食店(10店舗)が出店し、地域住民に向けた店舗の紹介を兼ねた「西神楽マルシェ」を実施。 ●移住・土地・空き家活用に関する相談窓口を常設し、不動産事業者と連携して物件の斡旋手続き、情報提供等を実施。 ●所有者不明土地利用円滑化等推進法人の指定を目指して、旭川市と協議・調整を実施。

事業内容・スキーム

○現地調査を踏まえて、地域内の空き家・空き地データを蓄積し、管理不全の状態にあるものに対して優先的に所有者探索を実施する。

○所有者探索の結果、所有者が不明であった場合、地域福利増進事業による土地の利活用及び管理の方法を検討する。

○都市住民や移住希望者との交流機会の創出や、空き家・空き地所有者向けの相談窓口を常時開設する。



モデル調査による取組成果

若者による新規出店の動きがマスコミで取り上げられ、西神楽の注目度が上昇中	マルシェで地域と新規店舗のつながりづくりを推進	空き地を活用したイベント運営の実績とノウハウを得た	旭川市で、所有者不明土地利用円滑化等推進法人の公募が開始
地域の空き地・空き家が新しい若者たちによって活用が進んでいることに対して、マスコミが注目し、新聞・テレビで発信される機会が増加している。 モデル調査によるマルシェの取組も紹介された。 現在、移住希望の問い合わせが拡大する傾向にあるため、継続した地域情報の発信体制をさらに構築していく必要がある。	社会実験としてマルシェを実施し、地域住民と新たに出店した若者の店のつながりづくりに寄与することができた。 今後は、地域のまちづくりの新たな担い手として参画してもらえるように働きかけていく。	社会実験を通じて、空き地を活用したイベントの運営手法の知見を得た。費用は広告宣伝費、借地の草刈りなどの維持費、テントなどの借用費、運営のための消耗品費などが生じ、必要な事業費の目安を把握した。今後も継続していくために出店者からの出資や駐車料金の徴収等、スキームの検討を行っていく。	旭川市から推進法人の公募が実施され、法人内部の課題が解消できれば、申請が可能な状態になった。 令和６年度中の指定を目指して、組織運営の体制を強化し、申請を行う。